

雪がた

— 豊科病院だより —



豊科病院広報誌
令和 2年 1月 10日 発行
発行者 豊科病院広報文化委員会
〒399-8205
長野県安曇野市豊科5777-1
Tel:0263-72-8400
URL <http://www.shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

歯科医師による出前講座



佐藤先生

正しい歯磨きの方法、歯磨きの大切さ、歯

当院の口腔ケア委員会と作業療法部は、「患者さんも職員も、歯や口腔内に関する適切な知識を得ることが大切」と考え、外部より歯科医師の先生方に病棟へお越しいただく「出前講座」を共同企画しており、この企画は平成27年に始まり、今年で4年目になります。

10月28日に小山歯科医院小山良先生がC病棟で、2回目の11月8日には上月歯科医院の上月淳先生がD病棟で、3回目の12月18日は土居歯科医院の佐藤賢一先生にB病棟でご講演いただきました。計3回の講演では、正



小山先生

槽膿漏の予防、口腔ケアと健康の関

係などを教えていただきました。入院患者さんからは、「歯医者さんからお話を直接聞くことができて良かった。」という声があり好評でした。

当院に入院中の方々の中には、虫歯や入れ歯、歯周病などの方もいらっしゃいますので、今後も歯や口腔の健康の大切さについて、理解を深める研修などを企画していきます。と思います。



上月先生

新年式〜令和2年始まる〜

1月4日、新年式が行われました。

関理事長総長の式辞では、令和2年が始まった。職員は診療報酬の改定の中身を研究し、患者さんにも有益になるようこの1年を努めて欲しい。」続いて



関理事長・総長

五味渕病院長は、「24時間体制の地域包括ケアが求められている。当院の職員数からは難しい面もあるが、将来的にはその体制に近づいていってほしい。」と、職員へ訓示しました。

地域で共に生きよう フェスティバルに参画

12月14日、豊科交流学習センター「きぼう」にて、「第7回 地域で

共に生きようフェスティバル」が開催されました。このフェスティバルは、障がい者への理解を深め、障害の有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい共生社会の実現を目指すことをテ



マにしたイベントです。近隣の方を含め、市民の方々に参加していただき、誰もがみんな楽しく過ごせる時間を作ることも目的にしています。

今回のフェスティバルは、特別ゲストとして、吉本興業所属のタレント「もう中学生」さんをお招きし、精神保健福祉に関するパネルディスカッションを開催しました。「もう中学生」さんは、冒頭で安曇野のイメージについて「どこでも寝ることができる、お布団みたいな地域!」と、独特な感性のコメントをされフェスティバルは開幕。

パネルディスカッションでは、もう中学生さんが、精神疾患の種類や治療法、罹患率、精神の障害の特徴、犯罪率、障がい者の生活のしづらさ、収入や就労の状況、など精神保健福祉に関する様々な質問をされ、パネリストの精神保健指定医、当事者の方、家族会の方、精神保健福祉士、相談支援専門員が丁寧に説明し、来場者が耳を傾けました。

実行委員は、主に安曇野市内の精神保健福祉関係の施設や団体、その当事者の方々や職員、更には行政職員で構成されています。当法人も、当院の精神科デイケア、自立訓練事業所アルプスホーム、グループホーム第一飛鳥荘・第二飛鳥荘・小倉ホームの当事者の方と職員が、実行委員として企画、運営に参画

し、パネリストとしても当法人から数名が登壇いたしました。

来場された約150名の市民の方々は、精神科の疾患や、精神障がい者への理解を深められ、フェスティバルのテーマや目的が達成できたのではないかと思います。



パネルディスカッションの様子



こんなときにはAED!!

●意識がない ●呼吸がない ●脈拍なし（熟練救助者のみ）

① ふたを開けると、電源ON!



「成人モードです。意識・呼吸を確認してください。胸を裸にして、AEDのフタから四角い袋を取り出してください。袋を破いて、パッドを取り出してください。パッドを青いシートからはがして図のように右胸と左わき腹に貼ってください。」

成人を救助する時⇒成人モード

小児（未就学児）を救助する時⇒小児モード



成人・小児モード切替スイッチ

② パッドを体に貼ります



パッドを貼ると、自動的に心電図の解析を開始します。AEDの音声ガイドに従ってください。

「体にさわらないでください。心電図を調べています。体にさわらないでください。」

電気ショックが必要な心電図の場合

「電気ショックが必要です。充電しています。」

電気ショックが必要な心電図の場合

「電気ショックは必要ありません。体にさわっても大丈夫です。直ちに胸骨圧迫と人工呼吸を始めてください。」

③ ショックボタンを押します



「体から離れてください。点滅ボタンをしっかりと押してください。」

「電気ショックを行いました。体に触っても大丈夫です。直ちに胸骨圧迫と人工呼吸を始めてください。」

人工呼吸の訓練を受けており、技術と意思があれば胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を交互に2分間行います。



胸骨圧迫 30 : 2 人工呼吸

傷病者に首段どりの呼吸が戻った場合は、身体を横向きにして救急隊員の到着を待ちます。（電極パッドは貼ったまま、AEDのフタは開けたままにしてください。）

NIHON KOHDEN

9月に日本光電工業株式会社様より、病院職員を対象に心肺蘇生の講習を行っていただきました。
出席職員全員が、ダミー人形を相手に胸骨圧迫やAEDの使用方法の練習をしました。

もしも、近くで人が倒れたり意識を失ってしまったところに遭遇した場合、落ち着いて救命行為を行うのは難しいと思われるので、実際に練習できる機会はとても貴重です。

知っていますか？ AEDの使い方

1 安全の確認



2 肩をたいて意識の確認



3 助けを呼ぶ



4 呼吸の確認



5 胸骨圧迫



胸が約5cm沈む程度の強さで、1分間に100回から120回のテンポで押します



30回の胸骨圧迫 2回の人工呼吸

6 AEDで電気ショック

体から離れてください

救急隊に引き継ぐまで心肺蘇生を続けましょう

今回は、日本光電工業株式会社様にAEDの使用方法和救命の手順の資料を頂きました。緊急時に備え、是非ご一読ください。

秋の一斉清掃に参加

11月6日に安曇野市一斉清掃に参加し、新田交差点から当院周辺の道路で、草刈りやゴミ拾いを行いました。

西陽に照らされ、11月にしては暖かい気候の中、春先には無かったたくさんの枯れ葉の除去を主に行いました。



防火防災訓練実施

10月30日、豊科消防署の方の立会いのもと、本年度2回目の防火防災訓練が行われました。入院患者さんの避難訓練、職員による消火器使用訓練など、多くの方が参加しました。



外来 医師担当表

令和2年 1月 10日現在

曜日	月	火	水	木	金	土
内科	いわき たけひこ 岩浅 武彦 医師	休 診	休 診	しみず ともこ 清水 智子 医師	休 診	休 診
精神科 ①	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしざと よしあき 西里 吉昭 医師	ごみぶち みつり 五味洸 満徳 医師	おかざき たかし 岡崎 隆司 医師	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	ごみぶち みつり 五味洸 満徳 医師
精神科 ②	いわもと よしき 岩本 芳樹 医師	いわもと よしき 岩本 芳樹 医師				

◎ 受付時間 午前 7:00～正午

◎ 診療時間 午前 9:00～終了まで ※木曜日の精神科は、午前9:30～診療開始

※ 午後は全科休診となります。

※ 日曜・祝日は全科休診となります。

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。
お問い合わせ先 電話 0263-72-8400

～ 編集後記 ～

明けましておめでとうございます。今年は「子(ねずみ)年」ですね。子年の暦としての特徴は①干支の一番初め ②うるう年 ③西暦を12で割って4余る年などで、世相的には、「発展」「飛躍」などが期待でき、何かを「始める」のに好機な年であるという説もあるようです。また、俗説ではありますが、子年の人は「食べるものに困らない」「こまごましたことによく気付く」「こまごまと良く動く(働き者)」「協調性がある」などと言われることも多いそうです。

そんな子年に開催される東京オリンピック。日本の選手には大いに「活躍」してもらいたいと願っています。

※表題「雪がた」について

春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。